

Top News
10/10

第49回埼玉県消費者大会

第49回埼玉県消費者大会

つながろう ふみだそう 平和で公正な社会に向けて

第49回埼玉県消費者大会が27の消費者団体で構成する実行委員会の主催により埼玉会館で開催され、約900人が参加しました。来賓の上田知事の挨拶、社会学者の上野千鶴子さん(東京大学名誉教授)が「みんなおひとりさま〜いまから考えよう!より良い人生を送るために〜」と題して記念講演されました。午後は、5つの分科会に約500人が参加して学習・交流しました。



2013さよなら原発埼玉県民集会 3,500人が脱原発を訴えました

「2013さよなら原発埼玉県民集会」(2013さよなら原発埼玉県民集会実行委員会主催)がさいたま市浦和区の北浦和公園で開催され、3,500人が参加しました。田中照巳実行委員長(埼玉県原発被害者協議会会長)が挨拶し、「原子力は人類と共存できない、原発はすべてなくすべき」と訴えました。医師の肥田舜太郎さんなど3人から全体発言、県内で運動をする市民や団体からの報告の後、参加者で決議を採択して浦和駅東口までパレードしました。



消費生活協同組合法65周年記念 厚生労働大臣表彰 平成25年度埼玉県消費生活功労者表彰 生協の活動が評価され 表彰を受けました

厚生労働大臣表彰式が厚生労働省で行われ、全国27組合と25人の方が表彰されました。埼玉県生協連関係では、コープネット事業連合(赤松光理事長)と埼玉県生協連前会長理事の伊藤恭一顧問が受賞しました。12月3日には、埼玉県消費生活功労者表彰式が埼玉県知事公館において行われ、消費者団体役員13人が上田知事より表彰されました。生活協同組合役員では、二人の方が受賞されました。

10/24



個人表彰を受賞された25人の皆さん(写真提供:日本生協連)

12/3



上田知事を囲んで(知事公館にて)



配送拠点での太陽光発電もすすんでいます(写真は、生活クラブ生協狭山センター、同生協提供)

再生可能エネルギー研究会

再生可能エネルギーの学習と交流をすすめています

埼玉県生協連では「再生可能エネルギー研究会」を発足させ、原子力発電に頼らないエネルギー政策として、再生可能エネルギーの可能性と課題について学習・交流をすすめています。太陽光発電やバイオマスなどの再生可能エネルギーの可能性と生協での取り組みに向け、専門家を交えた学習、生協組合員を対象としたアンケート調査、各地の先進事例の視察研修を踏まえ、今年度の研究成果をまとめる予定です。

2013彩の国食と農林業ドリームフェスタ 県内の4生協と生協連が 一緒になって出展しました

「2013彩の国食と農林業ドリームフェスタ」(主催:彩の国食と農林業の祭典実行委員会)が東松山市の岩鼻運動公園で開催され、たくさんの来場者で賑わいました。埼玉県生協連はこの催しを後援し、コープみらい、バルシステム埼玉、生活クラブ生協、医療生協さいたまの県内4生協と共に参加しました。

11/2・3



広がる県内生協の多彩な活動

コープみらい

コープみらいとして『エコプロダクツ2013』に 初めて出展しました



リサイクルなどの取り組みを紹介する展示やステーションにたくさんのおもちゃが並び、熱心にメモを取りながら学びました。

12月12日から東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された日本最大級の環境展示会『エコプロダクツ2013』に出展しました。今年度は「地球の未来のための3つの視点(自然共生社会、低炭素社会、循環型社会)」から「循環型社会」に焦点をあて、「静脈物流」(店舗・コープデリ宅配センターや組合員への納品車両の戻り便を利用した資源物の効率的な回収・集積の仕組み)や、「エコセンターとリサイクル」(組合員から回収した資源物の減容・圧縮、再生製品化の流れ)について、コープみらいのCO2削減やリサイクルの取り組みを分かりやすく展示・説明し、多くの来場者に参観いただきました。

バルシステム埼玉

埼玉県と『包括的連携協定』を締結しました



バルシステム埼玉は11月28日、埼玉県と『包括的連携協定』を締結しました。この協定は、県と企業が資源を有効に活用し、環境保全、地産地消など、幅広い分野で相互の連携による活動を推進することで、県民へのサービスの向上、地域の活性化を図るものです。主な連携の取り組みとして、地産地消の取り組み、県が行うイベントや事業をお知らせする広報活動、大規模災害発生時の一時避難所として一部配送センターの開放、車両提供等に協力します。今後、さまざまな分野で埼玉県と連携・協働し、地域の一員として、さらなる社会貢献に努めます。

生活クラブ生協

ニクイほどすごい肉の話



講師の熊谷氏

国内の食料自給を高めようとする「食べるチカラキャンペーン」の講演会を10月22日、人間総合科学大学教授の熊谷さんをお招きして開催しました。私たちの体の構成成分の基本はタンパク質と脂質ですが、加齢によりタンパク質と脂質が抜けていくので、その摂取が大事になってきます。今話題になっている新型栄養失調は血液検査のアルブミン値でわかりますが、それを補うためには肉のような食品がとても重要で、講演会を聞いて、肉をしっかりと食べる必要性や、生活クラブの牛を丁寧に育てている生産者と共に生きていくために食べ続けることの大切さを学びました。

医療生協さいたま

「ゆるキャラさみっとin羽生」に参加しました



11月23・24日、羽生市の羽生水郷公園で行われた「ゆるキャラさみっとin羽生」に医療生協さいたまのキャラクター「ココロン」が参加しました。「ココロン」に関心をもってくれた人にチラシを配布し、健康チェックコーナーでは約500人に「血圧チェック」「握力チェック」を行いました。立ち寄った方からは、「医療生協って何ですか?」「医療生協の病院に家族でみてもらっています。医療生協っていいですよね」などのことをいただき、たくさんのお交流がありました。
*「ゆるキャラさみっとin羽生」は、2日間で来場者45万人という大規模なイベントでした。

コープネット事業連合

消費生活協同組合法制定65周年記念 厚生労働大臣表彰を受けました



10月24日、厚生労働省で、消費生活協同組合法制定65周年記念厚生労働大臣表彰式が行われました。消費生活協同組合法制定65周年を記念し、法の理念に則って健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合及び消費生活協同組合連合会・組合役員に対し厚生労働大臣が表彰を行うもので、コープネット事業連合は生活協同組合(連合会)として表彰され、赤松光理事長が代表して表彰式に出席しました。コープネット事業連合はこれからも、組合員・消費者と、産地・メーカーとの協力関係の強化や自給力のアップなどを通して社会的な役割を發揮してまいります。

埼玉県労働者共済生協

埼玉労済50周年を記念し、 神戸で協同組合運動を「体験学習」



12月1・2日、54団体58名が参加し、全労済埼玉県本部・埼玉労済50周年記念事業の一環として、協同組合運動「体験学習」を開催しました。神戸の「賀川豊彦記念館」では、労働運動や協同組合運動の草分け的存在である、賀川豊彦氏の「志」や「実績」等の説明を受け、今日的な労働運動の意義・目的・役割・課題等を再認識しました。全労済埼玉県本部・埼玉労済は、2014年3月11日に、50周年を迎えます。「組合員の全労済」をめざし、これからも組合員のいのちと暮らしを何よりも大切に考え事業運営を行ってまいります。

さいたま高齢協

一人ぼっちの高齢者をなくしましょう ~オールドローズ「KIZUNA絆」が石巻へ



東日本大震災直後、フランスのオールドローズ協会から「被災した人々の為に出来ることあれば」と、日本で商品化出来るバラとして「KIZUNA絆」が寄贈されました。これを受けて「NPO法人日仏チャリティーローズ絆」が設立され、現在まで育苗と販売に力を尽くされています。縁あって、このKIZUNA絆の苗15本を、さいたま高齢協から宮城高齢協への橋渡しで石巻へお届けしました。薫り高いKIZUNA絆が、様々な「さすな」を広げてくれる事を念じて、所沢地域福祉事業所まあちでも育てています。(増田アツミ理事長より寄稿いただきました)

子どものその保育生協

大バザール、曇天をふっ飛ばし、大盛況でした



上福岡中央公園から「子どものその」会場を移して2年目、11月10日に大バザールがひらかれました。夕刻は雨さえも予想された肌寒い曇り空でしたが、前日のお父さんボランティアと地域班やクラスのお母さんたちで模擬店やバザー店の準備が整うと、送迎バスからどんどんお客さんが降りてきました。入口で店の特徴をアピールする案内書が配布され、どの店、コーナーもいっぱいのお客さんで賑わいました。園庭に広い食堂スペースを取ったのも幸いして、お客さんは一休みしながらゆっくり見て回ることができたようです。